

## 歌と写真で綴る薩摩の脇道

### －歌三昧の史跡巡礼、その4-3－

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル 粟 傷志・高田 昌実・萩原 隆二  
 鹿児島大学 名誉教授 納 光弘  
 加治木温泉病院 夏越 祥次  
 県立大島病院 粟 隆志

#### [4] 距第六師団の碑

市立美術館の道路添いの右角に、大きい石碑が建っている。いつもお花が咲いている。正確な碑の内容は分からぬが、図のように側面に「距第六師団」「距鹿兒嶋衛戍」...と刻まれている（図166）。

陸軍第6師団は、1872（明治5）年に設置された熊本鎮台を母体に、1888（明治21）年に編成された師団で、鹿児島など九州南部の出身者で編制。衛戍地が熊本である。断定的ではないが、この石碑と衛戍地の行程（五拾参里）を示しているようだが、詳細不明。

#### [5] 鶴丸城の石垣

孫武は、紀元前五百年頃の中国の軍事思想



図166 「距第六師団の碑」

家である。前出の古代ギリシャのサッフォーの時代に近い。

私は高校の漢文の時間に、彼の兵法を学び、種々の本も読んだ。今思うと、西郷がなぜ、私学校で、これを徹底的に教えていなかったんだろうと、悔やまれる。

彼の思想は、いつの世にも通ずるものがある。

その根本思想は、「兵は詭道なり」で、「百戦百勝は、善の善なるものに非ず...」「国を全うするを上と為し、国を破るは、之に次ぐ」である。

孫子四如の旗と称された旗指物「風林火山」で知られる、甲斐の武田信玄（1521-1573年）は、「人は城 人は石垣 人は堀 情けは味方 仇は敵なり」でも知られる。

孫子は、いつの世にも読まれていた。

戦国時代～江戸初期、江戸末期～明治初期、特に前者に於ては、堀と石垣は城郭の要であり、これにより、国の命運つまり生死が決する可能性が高かった。

石垣の石積みは、戦国時代以降、城郭の発達に伴い、建築技術の重要な一つとして、その工法が発達し、穴太衆などの石垣衆と呼ばれる石工集団が活躍した。

280 石達の ジクソーパズルか 石垣は

281 城壁は 古人の知恵の跡

石積みは、石垣の規模、壁の角度（勾配）、

[隨筆・その他]

強度，地盤の状態，耐震性，水はけ，外観，対費用効果，組み方の難易度，用途，予算に応じ決定される。以下その分類を示す。

石の加工程度：簡単なものから，野面積み，  
うちこ は きりこ は  
打込み接ぎ，切込み接ぎ

石積みの方法：布積み（整層積み），乱積み  
外観：算木積み（でもある），谷積み，

亀甲積み，玉積み，笑積み

鶴丸城は，江戸時代の最初期に築城され，  
石垣も完成型である。

鶴丸城の石垣は，基本的には，個々の石を加工し，すきまなく並べた，「切込み接ぎ」の「布積み」であるが，一部に，「切込み接



図167 御楼門の左側の石垣

ほぼ同じ大きさの石を横並びに置く，切込み接ぎの布積み。横目地が通る。



図168 私学校跡に面した堀の石垣

大小の不整の石が混在した切込み接ぎの乱積み。石のジグソーパズル。

ぎ」の「乱積み」も見られる。

図167は，御楼門の左側の壁で，同じような大きさの石を，一段づつ整然と横並びに置く布積みで，特徴となる横目地が通っているのが，よく分かる。

図168は，城山に向かう北門側の石垣で，大小の不整形の石が混在した乱積みである。

以上は，石垣の法面の築石，平石であるが，次に，重要な出隈の隈石（角石）を見る。

図169は，御楼門の左手の隈石である。その特徴的外観から，典型的な算木積みである事が分かる。

算木積みは，1600年以降に普及した方法で，



図169 御楼門の左手前の隈石

算木積みである。更に御樓門側には，亀甲積みも認める。



図170 御樓門から城内に入る坂道の石垣

隈石は算木積み。整然としているが，壁の水はけが悪く排水口を認める。

長方体の石の長辺と短辺を、交互に重ね合わせる。通常、長辺と短辺を倍以上になるよう加工する。極めて強い強度を得る。

平成28年の熊本地震で、熊本城の飯田丸五階櫓を支えた、右隈の一列の算木積みは、記憶に新しい。

御楼門の算木積みの右手には、五角形、六角形の亀甲積みが一部にみられる。

亀甲は、ハニーカムあるいはベンゼン環のように、安定した六角形であるが、亀甲積みは五角形のものも多い。

図170は、城内に入る登り坂の石垣である。隈石は、算木積みで、周囲の法面は、布積みである。外観は整っているが、すきまが無く、水はけが悪く、排水溝が必要となっている。

重機のない時代に、石を切り出し、運搬・加工し、石を積みあげた人達の努力がしのばれる。

大阪城の多くの巨石は、権威の象徴である。この門の左右、背後の巨石の他、大阪城には、驚くほど多数の大石がある（図171）。

#### [6] 宝暦治水工事薩摩義士の碑

小学生の時、江戸時代の濃尾平野での氾濫



図171 大阪城の門の両側と背後の巨石

門の中央に天守閣が遠望されるように、計算しつくされて、巨石が配置されている。背後の巨石の位置は、ここしかありえない。前方でも後方でもだめである。権力の象徴（中<sup>2</sup>の修学旅行アルバムより）。

による水害、輪中、水屋、軒下の舟や治水工事のことなど習った。

鹿児島に来て、それが、宝暦の治水工事と知った。その碑が、鶴丸城址の医学部キャンパスに隣接していたからだ。

内堀に沿って城山に向かうと、突き当りの城山登山道の入口階段を登った正面に「宝暦治水工事薩摩義士の碑」はある（図172）。

1753（宝暦3）年、徳川幕府は、外様の有力大名である薩摩藩を警戒し、その経済力を削ぎ、濃尾平野を水害から守るという、一石二鳥を自論見、洪水を頻発させていた木曽三川（木曽、揖斐、長良川）の治水工事を命じた。

家老の平田韌負が総奉行となり、約1,000人で現地に赴いたが、難工事、幕府役人の横暴、病気（赤痢）などで、51人が自決、33人が病死、つまり84人の死者（死亡率8%は非常な高値であり、戊辰戦争での薩摩藩の死亡率を上まわる）が出た。

また、工費も当初の見積もりを大きく超過し、40万両に達した。

1年3カ月で工事は完了したが、工事終了後、平田は自刃した。

当時は、幕府の力が強かったため、幕府への配慮から、事業の偉業は公表されず、1920



図172 「宝暦治水工事薩摩義士碑」

城山登山道入口にある。右側の石燈籠には、東郷平八郎の揮毫で「義烈泣鬼神」と刻まれている。



図173 薩摩義士の碑

平田勤負を頂点とする金字塔型の碑。左手に大きい石碑があるが、内容は不詳。



図174

頂点の平田の碑の刻名は「平田正輔君」とある。

(大正9) 年になって初めて、この地に慰靈碑が建ち替えられた(図173)。

碑は金字塔形で、前と左右の3面に、各々の名前と没年月日が刻まれている(図173)。

頂点に平田の碑があるが、「平田正輔君」とある(図174)。

これらの碑とは別に、左側に大きい、由来を記したと思われる碑があるが、俄には判読できない。

なお碑に向かう石段の登り口の右側に、大きい石灯籠があり、その右側面に、東郷平八郎の揮毫で「義烈泣鬼神」と刻まれている。

碑の左手前に、平成2年に岐阜県根尾村よ



図175

碑の左手前に岐阜県根尾村より寄贈された「淡墨桜」が植樹されている。



図176

御樓門建造のため寄贈された、2本の樹齢3百年以上の櫻の大木。

り寄贈された「淡墨桜」がある(図175)。

更に、御樓門建造に際しては、宝曆治水工事の幕府方の関係者の御子孫の方から、樹齢三百年以上の櫻の大木材が贈られている。

樹齢からして、治水工事を見ていたのかもしれない。今は御樓門から、義士の碑を見守っている(図176)。

282 お堀端 歩き來りぬ 目交ひに 義烈の  
昔一人しのばむ

283 南風 淡墨桜 咲かしめよ 義烈の思ひ  
千代にとどめむ

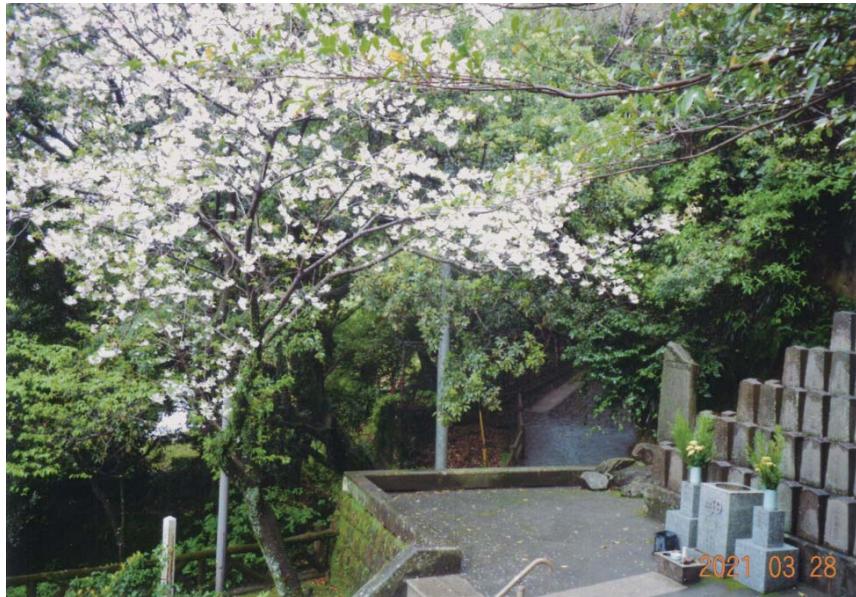


図177 そほふる雨の中なれど  
淡墨桜 今 盛りなり

3月28日，碑を訪れた。あいにくの雨で，  
桜も散り始めていた。世の常である。

然し、桜は満開で、あたりは、新緑の候，  
酣である。しばし、ここに居ると、過去と現  
在は重なり、人は自然と一体となる。

284 春雨じゃ 濡れて見に行く 花見かな  
(半平太風に)

285 散る桜 風吹かねども 心なく 今日も  
恨みの雨の降りける

286 城山の 義烈の前に匂ひ咲く 淡墨桜  
雨に散りつつ

287 春雨に 古へのこと流れ去り 淡墨桜  
爽やかに咲く

288 傍の淡墨桜語るらく 薩摩の地にて古へ  
思ほゆ

289 宝曆に治水工事を眺めたる 御門の櫻  
義士の碑ながむ

290 ことし こよみ き  
今まで やよい いくとせ  
弥生たりて 幾年なりぬ  
宝曆の過ぎにしことを 思ひ染め  
青葉繁れる新緑の 春闌の城跡辺り  
ただ 唯一人 いにし 義烈の前に佇めば  
古への 恩讐のこと 雨に流れて

厳しき冬を堪へしのび  
花 麗しく咲けれども  
風吹かば 枝を離れて空に舞ひ  
雨降らば 雨に打たれて此地に散る  
そほふる雨の中なれど  
淡墨桜 今 盛りなり  
(宗博)